

12月5日と6日に姫路工業大学書写キャンパス書写紀年会館において行われた。31名の出席者があり、19の講演が行われた。

○総会報告

会計監査

1997年度会計報告がなされ、承認された。

新入会員

次の2件が承認された。

賛助会員 石油公団TRC

正会員 山口一裕 (岡山理科大学理学部)

次の2件につき報告・討論が行われた。

1) 原子炉問題

原子力研究所・立教大学・武蔵工業大学・京都大学の各原子炉について、現状と将来の予想について報告があった。国内の原子炉の安定した利用の確保が厳しい状況にあり、原子炉の安定した利用を確保できるよう、フィッション・トラック研究会としては協力していく必要があることが確認された。原子炉に関する情報は、手に入りしだい会員に周知するよう事務局が努力する。

2) 年代標準試料

角井会員の提案を受けて、国内で年代標準試料の選定を進めることについて討論した。現在、熊野酸性岩、室生熔結凝灰岩、照来層群歌長流紋岩、仁佐平デイスait (熔結凝灰岩)、大阪層群ピンクタフ (耶馬溪熔結凝灰岩) などが候補としてあげられている。(地質調査所では、熊野酸性岩類のジルコンの配布が可能になりつつあるという報告が角井会員からなされた。)他に適当な試料があればお知らせ下さい。

○12月6日の総会の後、淡路島北淡町の野島断層の見学会が行われ、14人の参加者があった。野外で3カ所で断層の観察を行った後、断層保存館を見学した。